

開催地名：東京都中野区	
開催日時	令和5年2月19日（日） 10：30 ～ 12：00
開催場所	中野区役所（オンラインによる講演）
語り部	菊池 由貴子（岩手県大槌町）
参加者	中野区在住・在勤の方 81名
開催経緯	<p>本区では、首都直下型地震等による被害が想定されており、各種普及啓発活動行っているところである。しかし本区では近年、大きな災害が発生していないことに加え、防災訓練や座談会への参加について、参加者の年齢層の偏りや、固定化がされつつあることから、将来的に災害に関する知識を持つ者が減少し、災害への認識の狭まりや希薄が懸念される。</p> <p>そこで、語り部による講演会を実施することにより、幅広い年齢層の方々が、災害発生時の役割を理解し、「自助」・「共助」を基本とする防災対策の重要性を改めて認識できるような学びの場としたい。</p>
内容	<p>（１） 東日本大震災について</p> <p>私が住む大槌町は、岩手県の宮古市と釜石市に挟まれた、三陸海岸に面した町である。海沿いの大槌湾に大槌川と小槌川が流れ込んでおり、この両河川の間には山があるため、限定されたわずかな平地に街が存在し、町民の多数が住んでいた。この街を津波が襲った。津波が来襲するとほぼ同時に火災が発生し、街は壊滅状態で、木造の建築物は軒並み流された。人口が約15,900人だった町で、死者821人、行方不明者413人、震災関連死52人、合計1,286人の人的被害が出た。この数字は県内ワースト（被災率8パーセント）となっている。また、家屋被害も6,417棟中4,375棟（約7割が被災）と極めて大きかったと言える。</p> <p>震災発生時、私は隣の釜石市内にいた。釜石市の震度は6弱だった。揺れがどんどん大きくなり、地面が裂けてしまうのではないかと思う程であった。「災害時は冷静に」と言われているが、実際に直面すると人間はパニックになってしまうし、思考停止状態に陥ってしまう。実際私は、釜石市の避難場所も海の位置もわからないまま、車で移動していた。いつどこでどんな災害にあうかわからない以上、最低限の基礎知識を身につけ、いろいろな状況を日頃から想像し、シミュレーションするくせをつけていただきたい。また、家族や知人に、その日の行動や行き先を伝えておくと、万一の際は安心だ。</p> <p>大槌町では、最大38箇所の避難所に6,000人以上が避難した。避難所の一つだった大槌高校では、生徒たちも役割を分担して運営に協力した。また、応急仮設住宅は48団地に2,146戸整備され、家を失った4,708人の町民が利用した。</p> <p>（２） 公助について</p> <p>まずは「自助」で自分や家族の命を守り、その後は「共助」で助け合う。「公助」は機能し始めるまで少し時間がかかるので、しばらくは「自助」と「共助」で対応しなければならない。避難所や避難経路、防災情報などの確認や、水や食料、非常持ち出し品の準備も自助であるし、平時に地域で実施する防災訓練や隣近所との付き合いが共助に有効なことは東日本大震災で実証済である。</p>

大槌町役場でも、町民に対する公助が機能しなかった。町長を含む職員 40 人が亡くなったこともあり、指示命令系統が上手く機能しなかったこともあるが、震災前の平時における備えの部分にも大きな不備があったと言える。自治体には「住民の命を守る責務がある」ことを、首長や自治体職員は肝に銘じてほしい。対応すべき「公助」はたくさんある。地域情報の発信、災害情報の周知徹底（住民＋職員）、ブロック塀の倒壊対策、トイレトレーラー、ダンボールベッドの活用、避難所のトイレの確保等、いつ来るかわからない災害に備えて準備が必要だ。（※避難所ではトイレが 50 人に一つ必要）

（3） 防災備蓄について

特別なものを用意するのではなく、日常にいかにかうまく組み込むか、楽しみながら取り組むかがポイントになる。具体的には、普段持ち歩くカバンに、人から借りることができないもの（持病の薬やコンタクトレンズ等）、防寒グッズ（使い捨てカイロ等）や水・食料（飴やチョコレート）、携帯充電器、ラジオ、メモ帳、ペン、家族などの連絡先を紙に書いたもの、小銭、最低限のお金、生理用品、タオル、頭を隠すバンダナ等を常に入れておくことをお奨めしたい。食料等の備蓄については、日常的に少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考慮しながら消費して買い足すという行為を繰り返し、常に一定量の食糧を備蓄する「ローリングストック方」が基本だ。

家や車には、飲料用と料理用として一人一日 3 リットルの水の常備をお願いしたい。その他に生活雑水（手洗い、トイレ、お風呂、洗濯）が一人一日 10～20 リットル必要となる。お風呂の残り湯を活用したり、ポリタンクに入れておけばいい。その他、カセットコンロ、ランタン、災害用トイレとトイレトーパーも必要だ。車のガソリンはこまめに給油し、満タンを維持してほしい。

国内外で、次の災害はいつどこで起こるかわからないし、迫りつつあると言っても過言ではない。災害時に支援してくれた誰もが、被災者になる可能性があることを忘れず、今すぐ準備を進めていただきたい。



人的被害と家屋被害(大槌町)

- ・死者 821人
- ・行方不明者 413人 ⇨3人に一人が行方不明
- ・震災関連死 52人
- 計1286人 ⇨被災率8%(県内最悪)
- ・家屋被害
- 6417棟中4375棟 ⇨約7割が被災

大槌町東日本大震災記録誌より

開催地より

今回の講演を受けて、避難所運営を強化していくために、防災リーダーの積極的参加を推奨していきたい。また、避難所生活（運営）における立場の弱い方（女性・子ども・性的マイノリティー・高齢者・障害者等）にも防災訓練に参加していただき、あらゆる視点から考えていきたい。